
岐阜県立加茂農林高等学校

学校長 村井 真
学校住所 美濃加茂市本郷町3-3-13 電話 0574-26-1238

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂農林高等学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和 3年 2月13日（書面開催）
- 3 参加者 委員 桂川 直人 岐阜県農業大学校長（会長）
生駒 一成 岐阜県指導農業士（副会長）
酒向 光世 社会福祉法人管理職
長谷川洋昭 ボランティア団体支部局長
渡辺 祥二 農業生産法人代表
井戸 肇 同窓会
中島 清貴 PTA会長

学校側 村井 真 校長
岩井のり子 事務部長
瀬瀬 斗一 教頭
斉藤 寧子 教諭（教務主任）
村井 陽一 教諭（生徒指導主事）
澤野 美彦 教諭（進路指導主事）
八束 功子 教諭（農場長）

4 会議の概要

(1) 生徒の教育活動の成果発表紹介

資料 課題研究発表6テーマ及び農業クラブの取り組みに関する資料

(2) 学校運営及び各分掌の年度末反省と次年度に向けた課題

資料 学校運営、教務部、生徒指導部、進路指導部、特別活動部の年度末反省資料

委員のご意見等

(1) 生徒の教育活動の成果発表について

① 各学科課題研究発表について

生産科学科

- ・未熟児の双子の子牛の飼育がうまくできたと思う。リスクの管理も必要だと思うので、農業大学のエコー検査の活用も検討してほしい。
- ・研究の活動を先輩から後輩に引き継ぎ、成果としてまとめていく過程が大切である。双子出産の母体のケアも考えてほしい。
- ・双子で小さく産んで、大きく育てられることは肥育農家の経営安定につながると思う。

- ・子牛とともに、生徒たちの成長も感じた。研究を後輩に引き継いでほしい。
- ・双子出産のリスクは母牛、子牛共にかかなりあるが、生産性を考えたことは素晴らしいと思う。

ー学校よりー

- ・岐阜大学及び全農岐阜・関係機関と連携して双子生産の有用性を科学的に検証するとともに、各分野（畜産・果樹・野菜）における GAP（農業生産工程管理）理論に基づいた実践的な活動を通して、地域農業の発展及び地域社会を守る産業人の育成を地域とともに図っていききたいと考えている。

□ 食品科学科

- ・天然色素を利用したマカロン製造には価値があると思う。花卉の収穫が大変と思うが、手間やコストはどれほどかかるか知りたい。
- ・青色色素を残すオリジナルな手法の発見は素晴らしい。今後も続けてほしい。
- ・あじさいとバタフライピーを利用した研究成果は、美濃加茂市の地域資源となる発見であり素晴らしい。
- ・中之島公園のカフェでパリ風のマカロンを食べられることに期待する。
- ・高校3年間で学んだことの集大成である。広い視野で地域を考え、これからも盛り上げてほしい。

ー学校よりー

- ・花卉の収穫は気温の高い7～10月にかけて行っており、大変だが重労働ではないため、市の農家さんにも栽培の協力をいただけるとありがたい。まだ試行錯誤中だが、美濃加茂市の手土産として、市の色と花「アジサイ」をイメージしたマカロンを商品化できるよう、地域の方の協力をいただきながら、今後も継続して研究に励んでいきたい。

□ 森林科学科

- ・耕作放棄地でのポップコーンの栽培は、鳥獣対策が心配だが、被害はなかったのか。収穫したポップコーンやきのこの商品価値を知りたい。
- ・竹の繁茂はどの地域でも課題である。竹チップがキノコの培地となることは知らなかった。今後の展開が楽しみである。
- ・竹林を菌床として有効利用することには期待が大きい。収量、味、コストはどうか。比較・考察がされると一層よかった。
- ・厄介な竹だが、殺菌消臭作用もあるのか。

ー学校よりー

- ・ポップコーン栽培での鳥獣被害はなかったが、雑草がひどく雑草対策が必要だった。
- ・ポップコーン、キノコ共に商品価値があると思うが、今後の取組次第なので、コストも含め、商品価値が出るように進めていきたい。
- ・竹の菌床栽培は今年度初めての取組である。味は販売されているものと比較しても遜色なかった。収量やコストなどについては、今後実験・研究を進めていききたいと考えている。
- ・竹に殺菌消臭作用があるとは知らなかった。余裕があれば、竹の有効利用の一つとして、殺菌消臭についても取り組んでいきたい。

□ 環境デザイン科

- ・樹木は1年手入れしないと倍の手間がかかるといわれているので、継続実施をしてほしい。
- ・森林科学科と連携を図ったことは、素晴らしい取組である。
- ・高所作業は安全第一である。また、剪定は感性が大切である。
- ・校内の庭園を見たが、素晴らしい。市内でも労作が見られ、街づくりにおいて存在感がある。

ー学校よりー

- ・安全に留意しながら、学んだ技術を生かし今後も校内や地域での庭造りや樹木管理に取り組んでいきたい。

□ 園芸流通科

- ・花の価値として、情報の付与は大切である。寄せ植えに使われている品目表示を検討してほしい。
- ・販売には、いつどの時期に寄せ植えが売れるのかなど、市場調査も大切である。マイクロ寄せ植えは都市部向けに期待できる。クリスマスの時期には鉢の素材も検討するとよい。

- ・新しい栽培を園芸アカデミーとの交流でさらに進めてほしい。
- ・「かものう（販売所）」で花を買った。一生懸命育てた生徒の気持ちが伝わった。

－学校より－

- ・寄せ植えは、植物生育を「負」の方向にコントロールする、新しい視点の栽培方法のコントロールである。流通的な視点も大切だが、身近な植物が「狭い」限定的な環境で生育する命のすごさを生徒に伝えたい。

② 担い手育成戦略事業報告

- ・あじさいは乾燥や直射日光に弱いので、メンテナンスや捕植用苗の準備も必要である。
- ・県のバックアップもあり、とても充実した取組であった。あじさいロードを継続して維持できるようにバックアップをしたいと考えている。
- ・農業の担い手不足は社会全体の問題である。本校の取組に感謝している。
- ・あじさい栽培で地域との連携を図り、フォーラムや講演、ワークショップも行っていることが素晴らしい。
- ・若い力を結集し、学びを活かした活動が地域活性化には必要である。今後に期待している。

－学校より－

- ・担い手育成事業では、地域の方と協力して各学科の専門的な学習を活かした地域活性化活動を行った。事業指定は今年度までだが、来年度以降も専門科目を活用し、この学びを継続していきたい。
- ・日本原産あじさいの生理生態の学習及び造園化というハード面の研究と、アジサイのように「小さな花の集まりがだが、団結して大輪となる」美濃加茂市政のイメージを流通させるソフト面の開発の両輪プロジェクトである。今後にご期待いただきたい。

③ 農業クラブ 安全教育の取組

- ・学科ごとに実習時のリスク評価がしっかりされている。農業大学校でも、牛の体側実習時に足を踏まれることがあったため、安全靴を履いている。
- ・ケガや事故をゼロにすることはとても大切なことである。一方、ケガから学ぶこともある。万一起きた時の対処法も必要である。
- ・私たち農業関係者も見習うべき取組である。
- ・将来の仕事にも役立つ取組である。
- ・社会に出てもヒヤリハットは経験する。啓発ポスターなどの工夫をして、継続的な活動に期待する。

－学校より－

- ・専門科目の学習目標を達成するためには、実験・実習の安全は必須だと考えている。実験・実習でケガや事故が発生するリスクや危険回避の方法を理解し、適切な危険回避行動ができるよう、来年度も引き続き取り組んでいきたい。

(2) 学校運営及び各分掌の年度末反省と次年度に向けた課題

① 学校運営

- ・感染を広めないために対策を徹底した学校運営は評価できる。今後、生徒・保護者のそれぞれの意見を踏まえて検証することが望まれる。
- ・コロナ禍で、学校運営協議会において十分なコミュニケーションが取れなくて残念だった。
- ・とにかく感染防止対策が第一だったと分かった。そんな中でも生徒目線で学校は対応していたと思う。
- ・働き方改革の意識醸成から実践までにはタイムラグがあると思う。
- ・学びの質の高さがよい学習に繋がっている。
- ・オンラインの普及には「閉じこもり」などの懸念もある。対面での直接的なふれあいも大切にほしい。
- ・コロナ禍による各種行事の縮小や中止によって、教員や生徒の心が心配である。一方、全てにおいて見直しができた年でもあったと思う。

－学校より－

- ・働き方改革は意識から実践に向かっている。教員という職に魅力を感じ、教員を目指す生徒を増やすためにも取り組んでいきたい。

② 教務部

- ・コロナ対策で整備が進んだICT機器をアフターコロナで有効に活用することが重要である。
- ・コロナ禍の中、「もう少し何かできたのではないか」という思いで3年生を送り出すのではないかと、生徒の気持ちを前向きにすることは大変だったと思うが、よく尽力された。
- ・授業中の迷惑行為とは具体的に何を指すのか。
- ・ICTの活用と、生き物の栽培や飼育体験という部分でさらなる模索を繰り返してほしい。

ー学校よりー

- ・授業中の迷惑行為とは、主に私語である。グループでの活動や交流と一斉授業時の切り替えをきちんとさせたい。
- ・今年度はコロナ対策で、学校のICT化が急速に進んだ。オンライン学習支援から一人一台タブレットや学習支援ソフトの導入など、困難な状況がなければ、ここまで早く整うことはなかったと思う。また、教員も新たな教材や指導方法にチャレンジする1年であった。アフターコロナのICT機器の有効活用は本当にその通りであり、来年度の教務の課題としていきたい。

③ 生徒指導部

- ・問題行動やマナーの乱れは学年ごとに特徴があると思う。進級時の指導強化をお願いしたい。
- ・「あいさつ」は最も重要なことだと思うので、指導を継続してほしい。活動が制限されたことによる反省も多いようだが、それを来年度に生かしてほしい。
- ・3年生の進路決定後の過ごし方は、対策が必要だ。
- ・生徒から明るい挨拶をされて気持ちがよい。専門高校では学ぶ目標が可視化できるため、生徒も取り組みやすい。

ー学校よりー

- ・MSリーダーズによるあいさつ運動を再開させていきたい。
- ・進路決定後の生活指導は、3年学年団と協力してしっかりやっていきたい。

④ 進路指導部

- ・農林系の専門高校として、農林業にかかわる職業観の醸成を図ってほしい。
- ・保護者として、コロナ禍での進路決定は難しかったと思う。熱意ある指導に頭が下がる。
- ・社会で求められる人材として、能力だけでなく、仕事に対する熱意もとても重要視されている。
- ・大学等への進学者が約半数と多いことに驚いた。

ー学校よりー

- ・就職の求人件数は昨年度の約80%であった。新型コロナウイルスの影響であると思われ、現状から推測すると来年度も厳しい就職状況が予想される。生徒にはできるだけ早く進路希望を具体化し、準備できるよう指導を継続していく。
- ・農業高校での学びを継続するための進学希望が比較的多く、大学等卒業後に専業あるいは兼業で農業を営みたいという生徒がここ数年の中では最も多かった。本校の農業学習に対する成果であると思う。今後も地域や関連産業に関わる様々な方々のご指導ご協力を頂きながら、農業を学ぶ高校としての役割を果たしたいと思う。

⑤ 特別活動部

- ・コロナ禍でマスクを着用しているため、アイコンタクトやおじぎなどを使ったコミュニケーションについて、専門家の指導を受けることを検討してはどうか。
- ・目標を失うことほど指導がしにくいことはないが、教員の適切な対応ですばらしい行事ができたと思う。
- ・今年度は自粛ばかりでかわいそうだった。徐々に安全対策が確立して芸術活動等が再開できるとよい。

ー学校よりー

- ・体育祭は中止せざるを得なかったが、その他の行事に関しては、計画段階から綿密な感染拡大防止対策を講じ、実施できた。コロナ禍にあっても生徒が活躍でき、今しかできないことを楽しく取り組むことができるよう、分掌外の教員からアドバイスや協力を得ることも多く、例年以上に学校全体で結束して対応できたように思う。

- ・マスクで表情が判りづらいうえに、ソーシャルディスタンスも必要な学校生活において、コミュニケーションの取りにくさが人間関係のひずみにつながるものが憂慮される。生徒指導部や進路指導部とも連携し、新しい生活様式に応じたコミュニケーションスキルを高める講演会等を検討したい。

5 会議のまとめ

第3回の学校運営協議会については、生徒の学習成果発表をぜひ見ていただこうと農業クラブの課題研究発表会当日に開催できるよう、委員の皆さまをはじめ、生徒たちとも計画を進めてきた。そんな中緊急事態宣言が発表・延長され、第3回協議会の開催についてずいぶん悩んだ結果、書面開催とした。委員の方々からは、「仕方がない」という容認もあれば、「どうにかして生徒の様子を見たい」というご意見も多くいただいた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策に翻弄された一年だった。試行錯誤の中でのオンライン授業（学習支援）など、新たな取組についての励ましとも受け取れるご意見やご指摘など、学校に対する多くの前向きなご意見を寄せていただいた。今後も学校運営協議会委員の皆様はもとより、地域住民の声に真摯に耳をかたむけ、頂いた意見をもとに学校改善に努めていく所存である。